



魅力満載！夢パーク

2023年8月19日

川崎市子ども夢パークを見学しました！

求められて2003年7月にオープンしたそうです。2006年からは川崎市子ども夢パーク共同運営事業体が指定管理者となり、いっそう、子どもたちが生き生きと自由な発想で遊べる学べる空間として、その存在は本当に魅力満載でした。

この日は、炎天下のせいか子どもたちの人数が少なかったように感じました。一緒になって泥んこになっていた大人の女性がいらしたので、スタッフの方ですかと尋ねたところ、いえ遊んでいる子どもの親です。子どもがここで遊びたいと言うので大田区から40分かけて来ました。とのこと。本当に楽しいんだろう、結構な頻度で通っているそうです。

子どもがドラム缶風呂を沸かすのに薪に火をつけようとして、なかなかつかなかったとき、口を出そうとしたら、そばに居た高校生から口出してはダメと言われたそうです。子どもが持っているマッチは残り2本。これがなくなるとその日は断念。次回リベンジ。そうやって、子どもたちは学んでいくそうです。

私の子どものころは、自然相手に遊び、知恵を付けていったことを思い出しました。

今日、そのような空間は、身近なところでは乏しく、人工的に創ることが求められています。私が暮らす“筑紫野市にもあったらいいなあ”を実現するために頑張っている市民の皆さんと一緒に奮闘します。

筑紫野市議会議員 古賀しんご



おとなのみなさん

子どもたちは、たくさんのことに好奇心を持ち、チャレンジします。ここでは、子どもたちの「やってみたい！」という気持ちを大切にしたいと考えています。そのために、プレーパークでは遊びを制限するような禁止事項をできるかぎりつくらないことで、子どもたちが自分で決めたり判断できるようにしています。また自然の素材や廃材、道具や工具を使って子どもたちの発想で遊べるような場づくりをしています。遊びの中では、小さなケガをすることもあります。子どもはその経験を通して危険から身を守る力を身につけていきます。私たちスタッフは日常点検を欠かさず行っていますが、気になることがありましたら教えてください。みんなで一緒に楽しい遊び場をつくっていきましょう。

川崎市子ども夢パーク



地中をめぐらす
トンネル

子どもたちが
作った基地？



井戸の
手押しポンプ

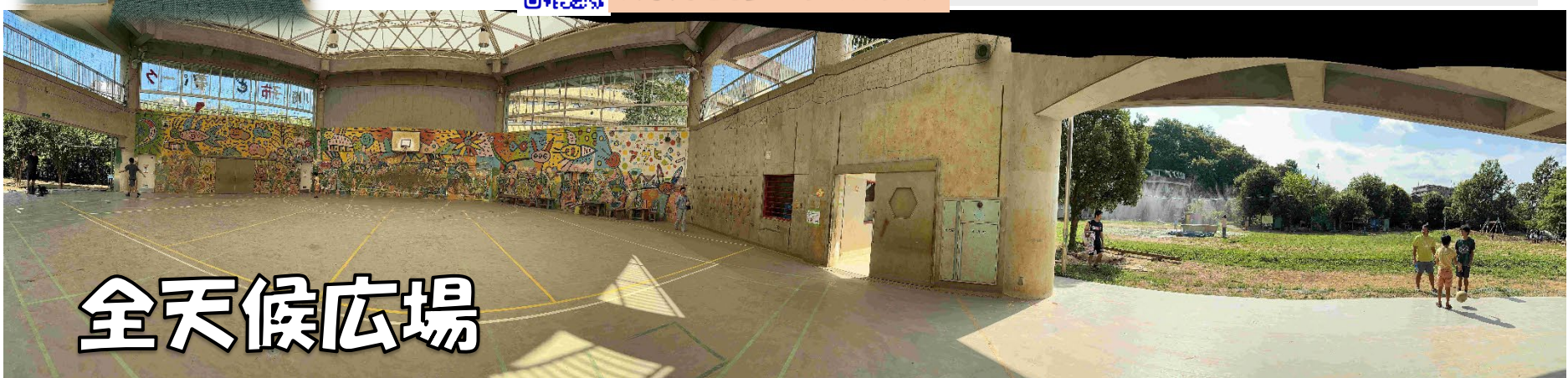
まだまだ心動かす空間
ありましたが、全容は
こちらから



川崎市子ども夢パーク web サイト



子ども会議室も
備わっていました



全天候広場